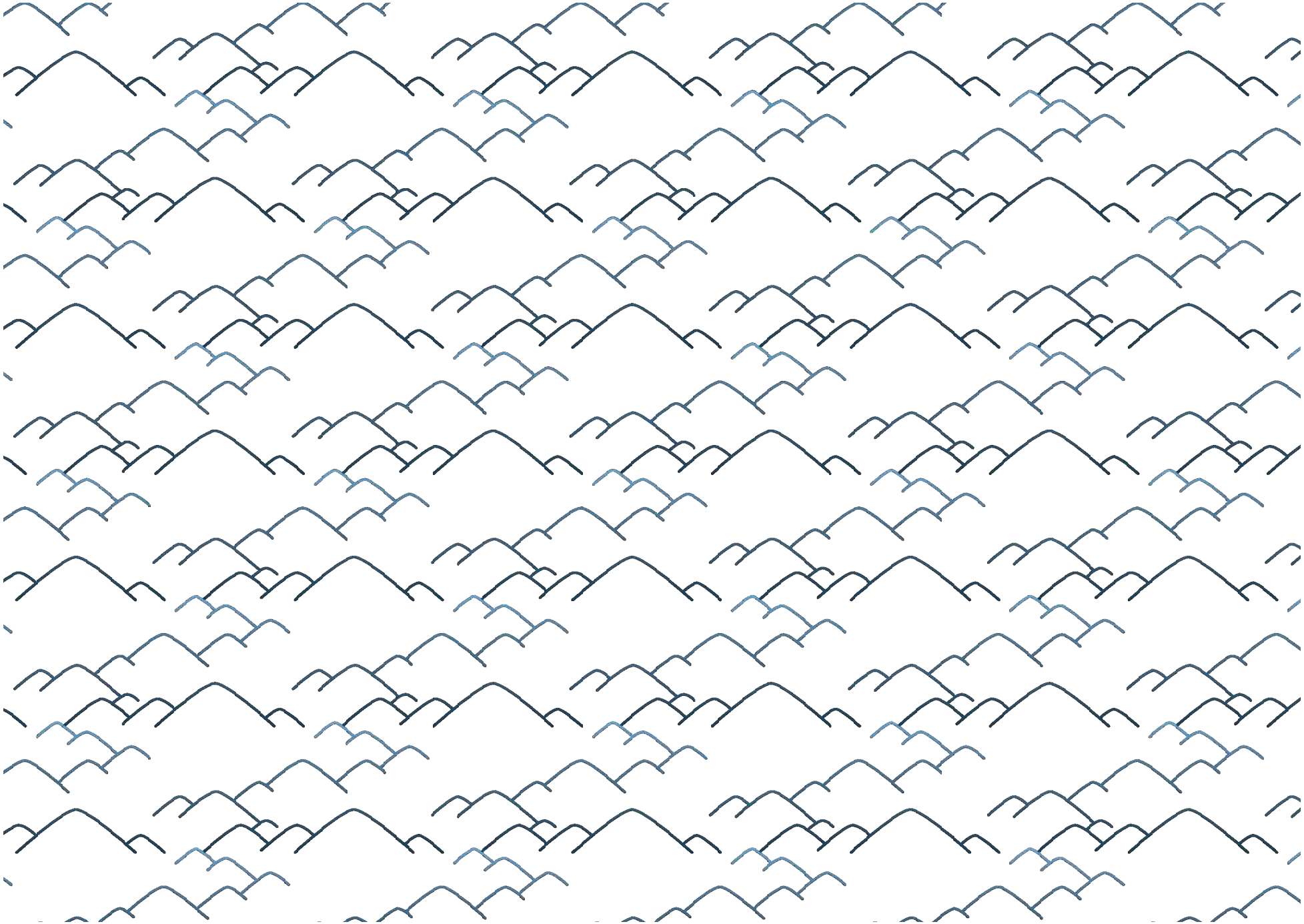
【パターングラフィック】
島内調査で得られたさまざまな要素をもとに、汎用性が高く、地模様としてさまざまなツールに展開が可能な連続する文様＝パターングラフィックの作成に取り掛かった。いわゆるパターンデザインは、世界中に点在する民族的・土着的伝統文様であり、例えばスコットランドの高地地方発祥のタータン・チェックやインドのカシミール地方のペイズリー柄、モロッコ中央部の都市マラケシュに由来するマラケシュなどが挙げられる。

島内リサーチで得た島のイメージからそれぞれにコンセプトを立て、パターンデータとしてデザインデータの検討と制作をおこなった。最終的に 15 案の新しい紋様を作成することができた（P.20 〜）。



甑島で印象的だった場面は、
どこまでも広がる海と広大な山々だった。
そのどちらにも見えるようなデザインを考案した。

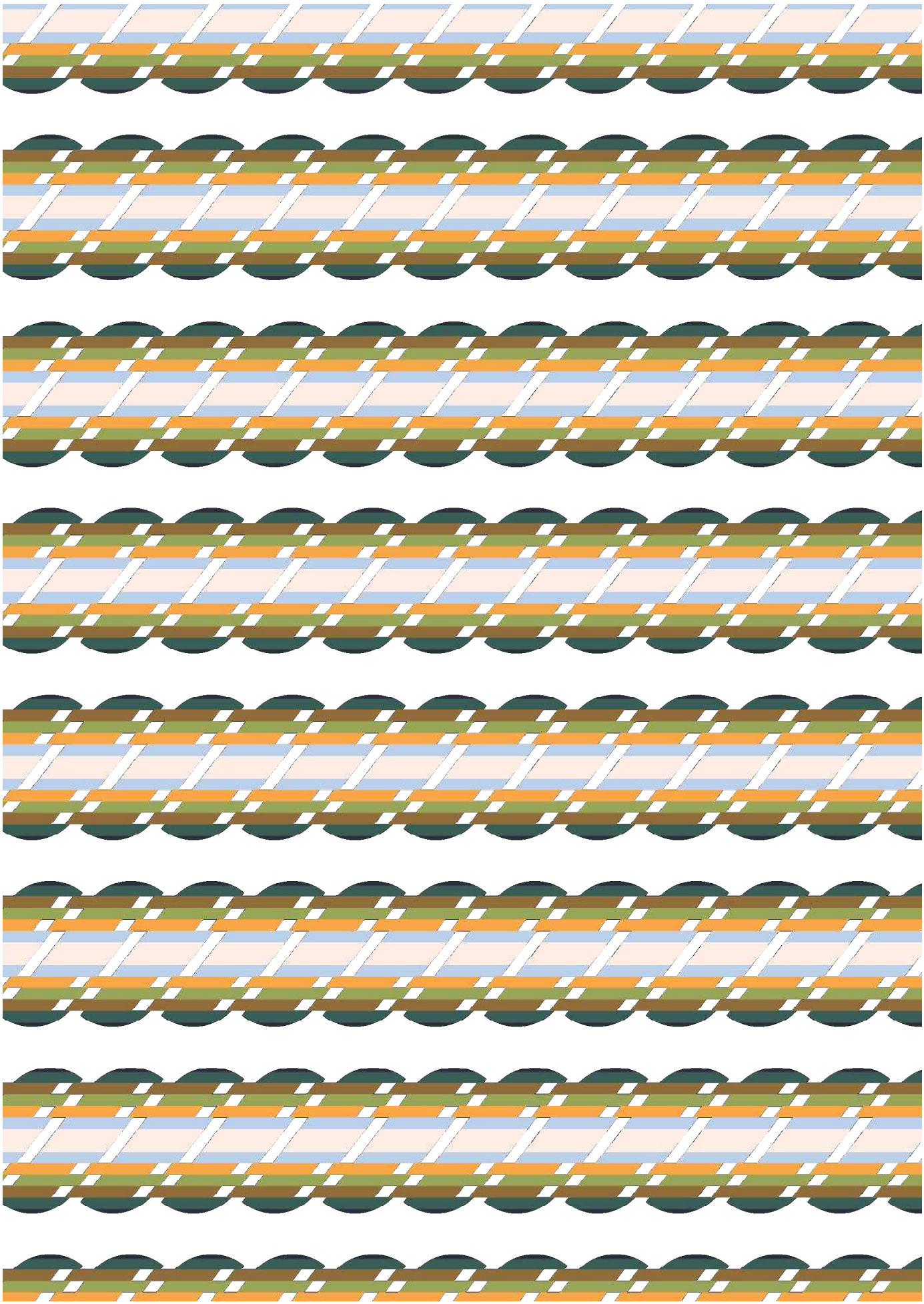
島田 彩音

印象的だったものの中に地層の模様があった。
その中でも、夜萩円山公園で見つけた
貝の化石が忘れられません。

島田 彩音

甑島の花である、カノコユリを使ったグラフィックパターン。
日本で一番自生密度が高いと知った。
甑島といえば＝カノコユリだ。

島田 彩音

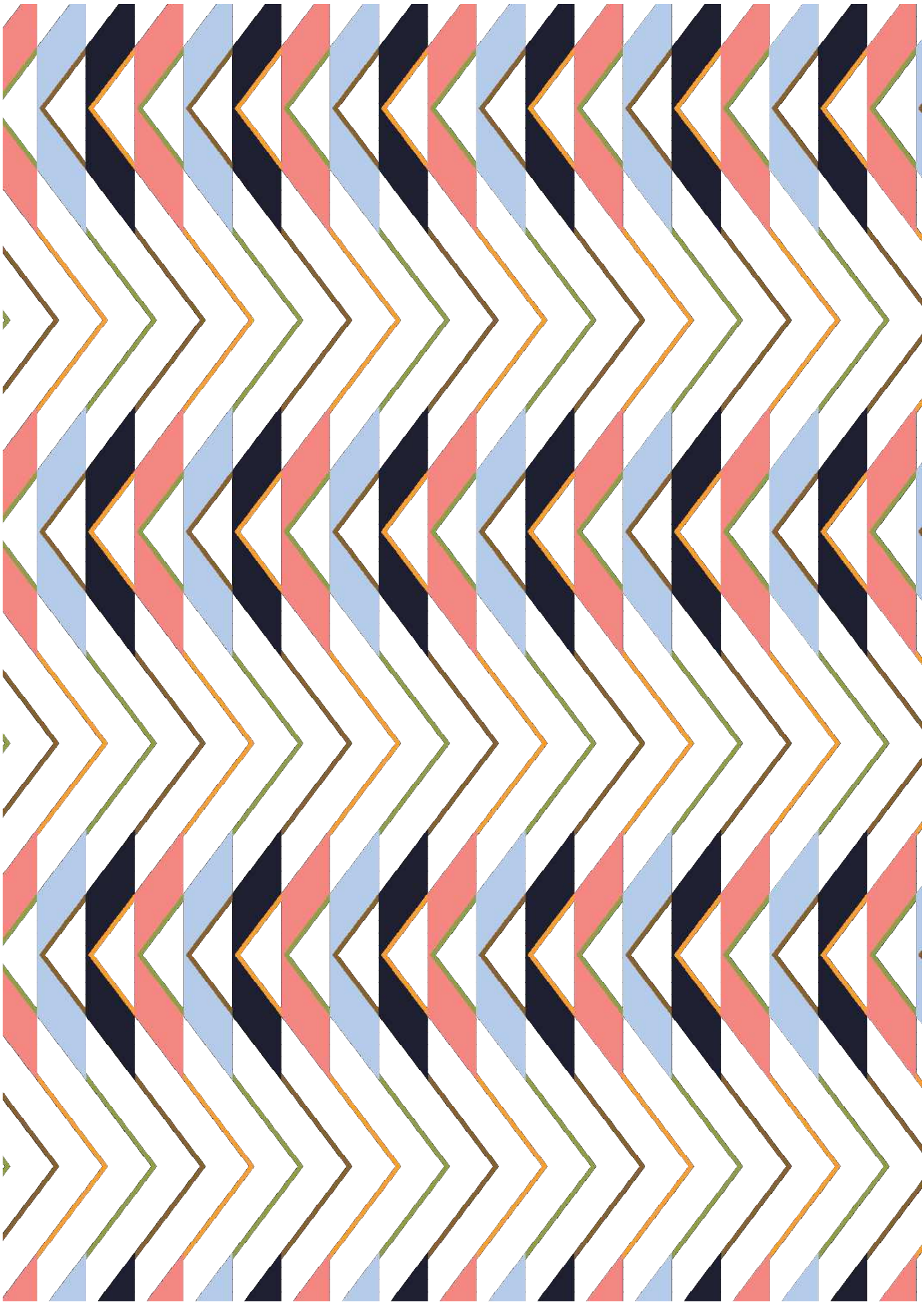


甑島では毎年、とても大きな綱を作るところから始まる綱引き大会がある。
この柄はその綱引きの綱をベースに、甑島の色々な要素が
一つに編まれて島全体が繋がっていくイメージとした。

杉本 涼真

半円は挨拶色と甑明を使い甑島の人々の温かさを、
三角は地層の見えている山々と鎌倉武士の笠をイメージした。
日の出のような見た目と、甑島のこれからの明るい未来を表した。

杉本 涼真

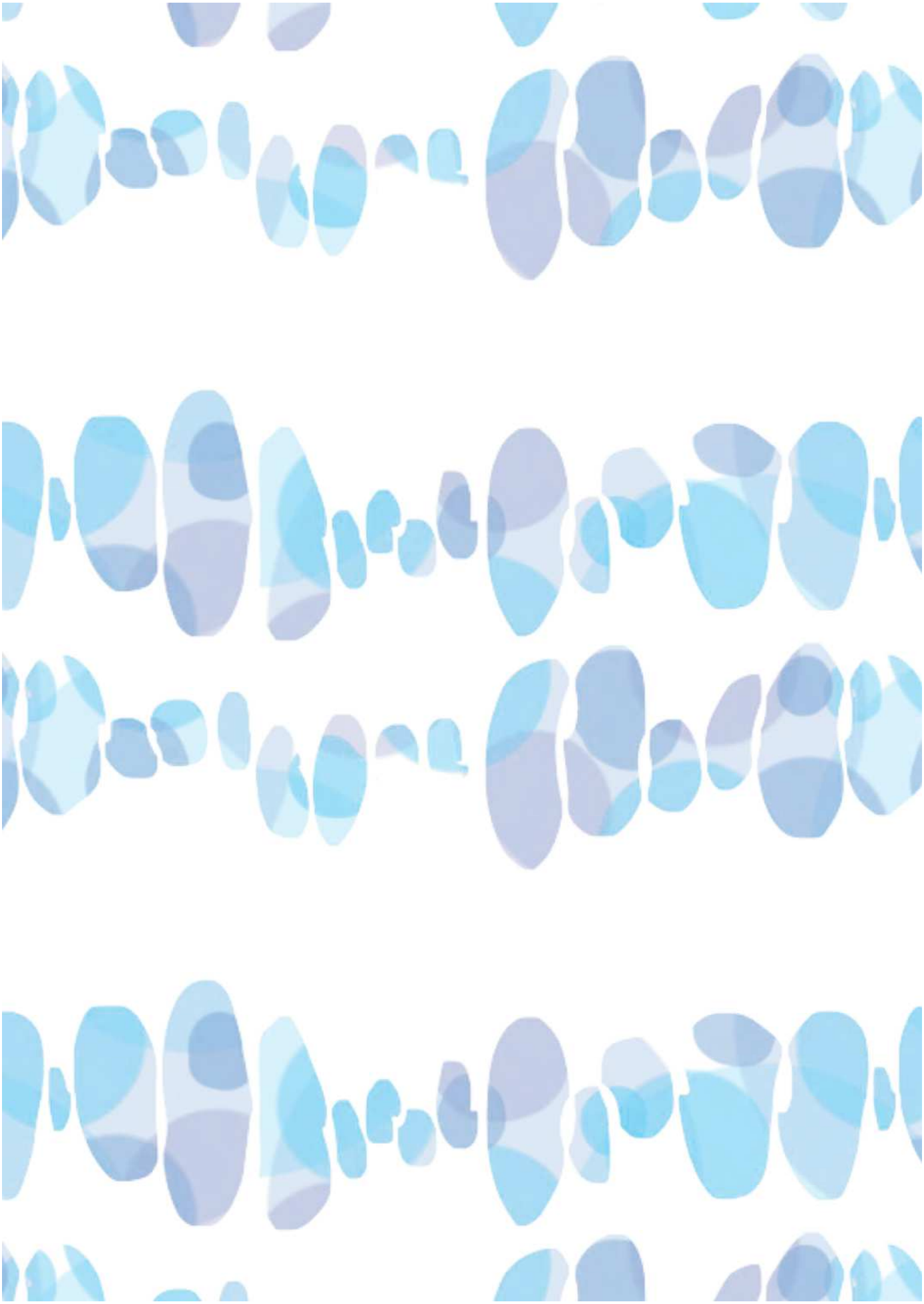


甑島の人の温かさ（「甑明」と「挨拶色」）、自然（「山日色」と「飛沫色」）、
土地（「地層色」と「玉石色」）の歴史を組み合わせ
波のように連なるようにして甑島の壮大な海をイメージした。

杉本 涼真

甑島で多くみられた岩肌をモチーフにした。
実際に見たときに「爪で引っ掻いたらぺろっと剥がれそう！」と思うほど層が薄く重なっている印象を持ったので、その印象を取り入れて制作した。

船木 鈴



丸石が多くある海岸には、誰かがバランスよく積み上げた石がよく見られた。
丸石は海で流され削られて丸くなっていることから、丸石は島の海との関連が深いと感じ、
あえて石の色ではなく、海を連想する色を使用した。

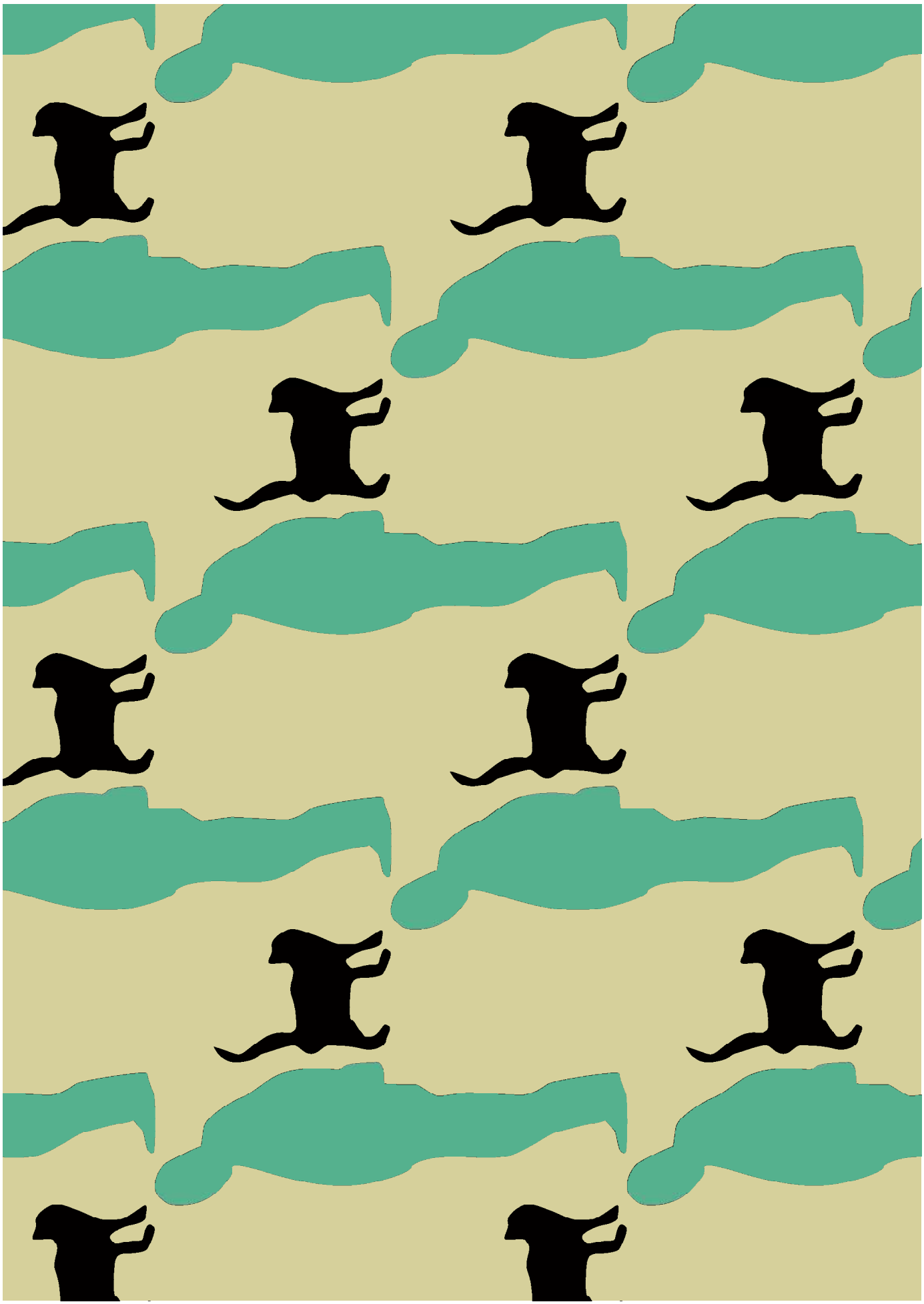
船木 鈴

甑島で多くみられた石垣と猫をモチーフに制作した。
島の日常の風景として多く見られた石垣と、そこに自然に溶け込んで、
気まぐれに現れる猫たちを表現した。

船木 鈴

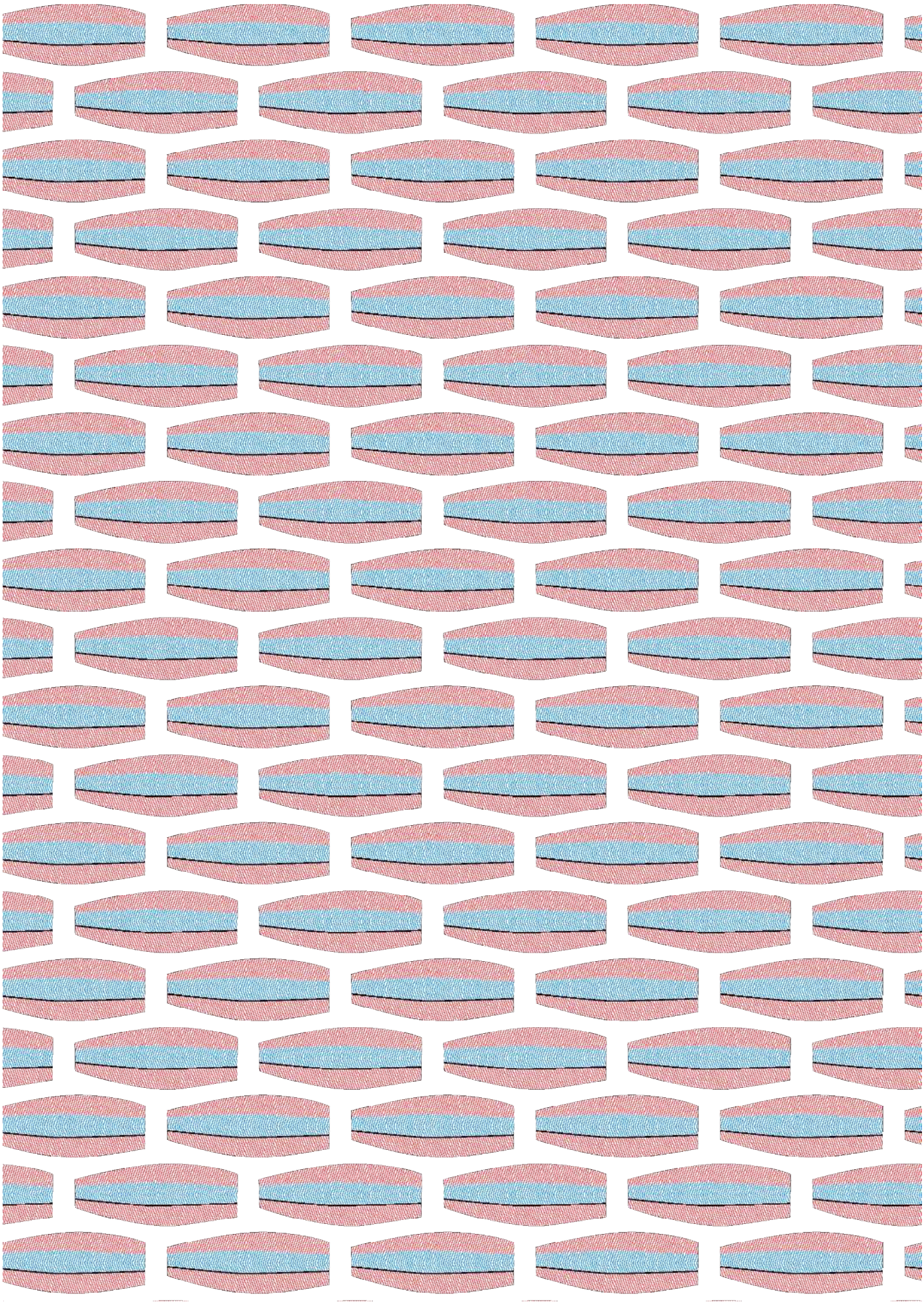
甑島の海岸や村の武家屋敷に用いられている
玉石垣をポップに現代風にアレンジした
デザインとなっている。

住吉 勇咲



街を歩いている時、村のおじいちゃんが猫と会話をしているかのように
一緒に散歩をしているところを目撃してとても愛おしく感じた。
その情景を元に考えたデザインである。

住吉 勇咲



街のカフェで食べたきびなごどん。新鮮で鮮やかな模様ときめ細やかなお魚の繊維。
何枚も重なることで、きびなごの持つ優しいオーラを感じることができた。
その情景を表現したデザインである。

住吉 勇咲

甑島の特産物によく見られる魚、キビナゴをモチーフにした。
研究調査の際に縄文時代の道具に見られた現代文字の「c」のような模様を
魚の目として見せ、制作に取り組んだ。

Shamsul A. Lamri

甑島では夏に鹿子百合という花が綺麗な花を咲かせます。
このパターンはその花をモチーフに、一枚の花びらだけで特徴を活かすことに挑戦し、
美しく優しくを意識しながら制作に取り組んだ。

Shamsul A. Lamri

甑島に研究調査で行った際に、化石のようなものがたくさん発見できた。
「山上もひと昔前、ここは海の中だった」と聞いて、関心と驚きを感じた。
甑島の宝のひとつでもあると思い、甑島のモチーフとして選んだ。

Shamsul A. Lamri